

南山大学
人間関係研究センター



CENTER FOR THE STUDY OF HUMAN RELATIONS
NANZAN UNIVERSITY

2020

CONTENTS

Volume 33, 2020

■センター活動紹介	1・2
■公開講座カレンダー	3
■公開講座	
1 第3回人間関係講座（ベーシック）	4
第4回人間関係講座（ベーシック）	
2 第113回人間関係講座（グループ）	5
第114回人間関係講座（グループ）	
3 第115回人間関係講座（コミュニケーション）	6
4 Tグループ〔人間関係トレーニング〕	7
NEW! 5 グループプロセス・ファシリテーション	8
6 体験学習ファシリテーション〈アドバンス〉	9
7 協同学習ワークショップ〈ベーシック〉	10
8 協同学習ワークショップ〈アドバンス〉	11
9 パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ〈ベーシック〉	12
NEW! 10 パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ〈アドバンス〉	
パーソンセンタード・リスニング	13
NEW! 11 パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ	
ベーシック・エンカウンター・グループ	14
12 ボディワーク・セミナー	15
海外からの講師招聘による組織開発の講座の実施	16
組織開発ラボラトリー実施報告	17
公開講演会	18・19
研究の推進	20
センター員の社会貢献	21
センター員紹介	22・23
受講申込手順	24・25
緊急時における講座の取り扱い	26
ファクス受講申込書	27
交通・会場案内	28

表紙について

終わりは始まり、始まりは終わり

In my beginning is my end, and in my end is
my beginning (T.S. Eliotの"East Coker"から)

18歳の娘は今年3月に高校を卒業する。高校を卒業することは、本人もだが、親の私もなんとなく一区切り終わったという感じがする。何か特別なことをしてきたわけではないのだが。

20年ほど前に、『人間関係研究センターカタログ』の表紙作成の依頼を受けた時、「子どもの成長に関わるテーマで表紙絵を描いてみたら」と当時センター員として在籍されていた先生からヒントをいただき、子どもの成長に関係するテーマで制作してきた。今回の作品には、1本の枝を持つ手が描かれている。枝の下の方にある実は古い茶色だが、上の方の実はこれから大きくなるように青く瑞々しい。一本の木に、枯れていく部分もあれば青々と育っていく部分もある。終わりがあって始まりがある。娘との今の関わり方は終わるのかもしれないが、新しい関わり方が待っていると感じている。

Center for the Study of Human Relations
Nanzan University

18 Yamazato-cho Showa-ku Nagoya, Japan 466-8673

Editor: Mitsuru Ikeda, Yoko Nakao, Yayoi Otsuka

Cover: In my beginning is my end, and in my end is my beginning by Rumi Ito



多様なあり方を尊重する、人間性豊かな社会を創り出すために

南山大学人間関係研究センターの活動

当センターは、人間及び人間関係の学際的研究や実践を推進することと、その成果を公開していくことを目的としています。特に、人間関係を学ぶための「ラボラトリー方式の体験学習」という教育方法の研究及び開発では、日本における中心的役割を担っています。当センターの活動内容は以下の通りです。

公開講座の開催

ラボラトリー方式の体験学習を用いた講座や人間関係領域の講座の開催

研究の推進

研究活動の実施 人間関係に関する学際的な研究の実施、定例研究会の開催

研究成果の公表 公開講演会の開催、センター紀要『人間関係研究』の出版

研究資料の収集 人間関係に関する文献の収集

センター員の社会貢献（コンサルテーション）

人間関係に関する研修の講師派遣や企画、組織開発コンサルティングなどの実施

人間関係研究センターのWebページで最新情報をご覧ください。また、公開講座・公開講演会・公開講座カタログなどのお申し込みができますのでご利用ください。



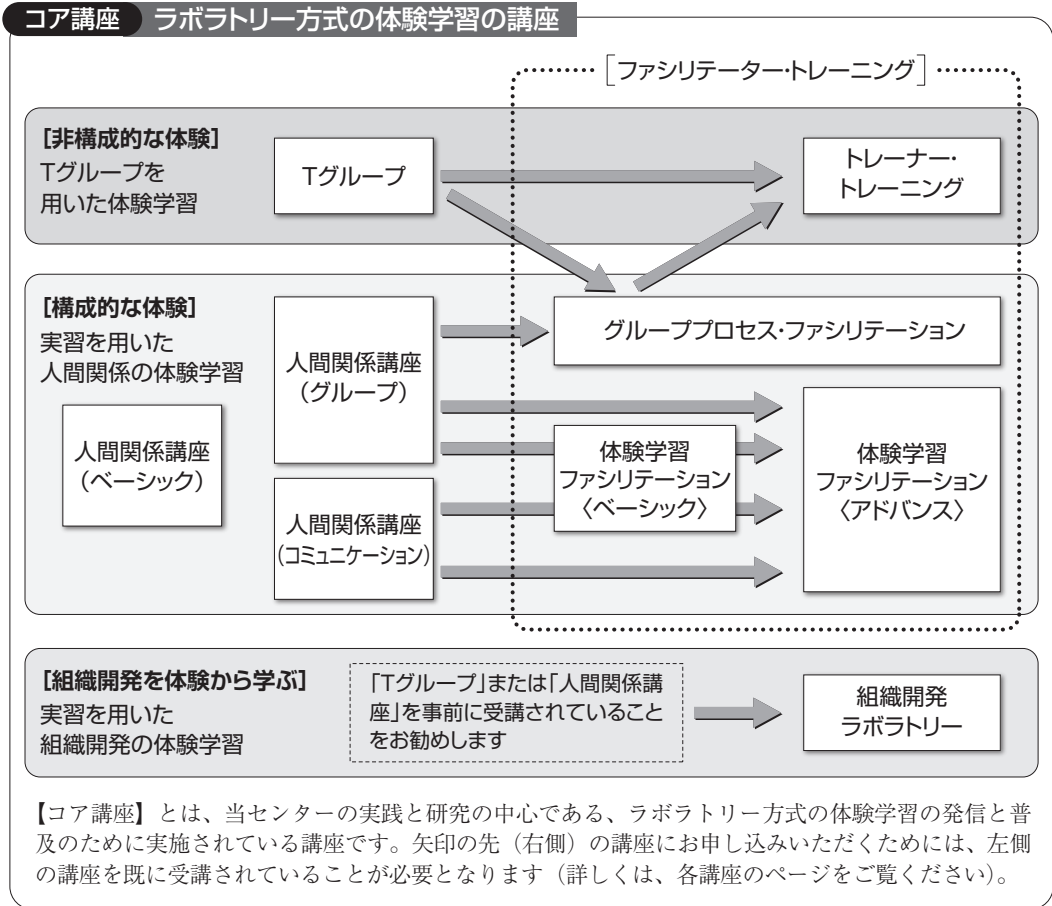
月1回メールマガジンを
配信しています。
お申し込みは
Webページからどうぞ。

<http://rci.nanzan-u.ac.jp/ninkan/>

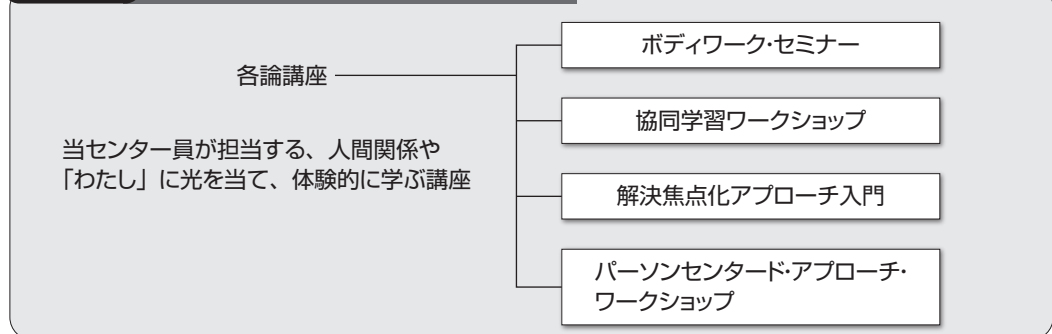
公開講座の開催

人間関係の領域や体験学習の教育方法に関する最新の知見を広く公開することが、皆様の研修の機会となることを願って、下記のような公開講座を開催しています。講座の位置づけは下記のようになっています。

【講座の位置づけ】



関連講座 人間関係に関連する講座



※開催される公開講座は年度により異なります。

公開講座 カレンダー 2020~2021

人間関係研究センター

2020年4月		5月	6月	7月	8月	9月
1 水	第1次受付期間 (抽選)	1 金	1 月	1 水	1 土	1 火
2 木		2 土	2 火	2 木	2 日	2 水
3 金		3 日	3 水	3 金	3 月	3 木
4 土		4 月	4 木	4 土	4 火	4 金
5 日		5 火	5 金	5 日	5 水	5 土
6 月		6 水	6 土	6 月	6 木	6 日
7 火		7 木	7 日	7 火	7 金	7 月
8 水		8 金	8 月	8 水	8 土	8 火
9 木		9 土 講3B	9 火	9 木	9 日	9 水
10 金		10 日	10 水	10 金	10 月	10 木
11 土	11 月	11 木	11 土	11 火	11 金	
12 日	12 火	12 金	12 日	12 水	12 土	
13 月	13 水	13 土	13 月	13 木	13 日	
14 火	14 木	14 日	14 火	14 金	14 月	
15 水	15 金	15 月	15 水	15 土	15 火	
16 木	16 土	16 火	16 木	16 日	16 水	
17 金	17 日	17 水	17 金	17 月	17 木	
18 土	18 月	18 木	18 土	18 火	18 金	
19 日	19 火	19 金	19 日	19 水	19 土	
20 月 第1次申込結果通知期限	20 水	20 土	20 月	20 木	20 日 GPファシリテーション(後半)	
21 火 第2次受付開始	21 木	21 日	21 火	21 金	21 月	
22 水	22 金	22 月	22 水	22 土	22 火	
23 木	23 土	23 火	23 木	23 日	23 水	
24 金	24 日	24 水	24 金	24 月	24 木	
25 土	25 月	25 木	25 土	25 火	25 金	
26 日	26 火	26 金	26 日	26 水	26 土	
27 月	27 水	27 土	27 月	27 木	27 日	
28 火	28 木	28 日	28 火	28 金	28 月	
29 水	29 金	29 月	29 水	29 土	29 火	
30 木	30 土	30 火	30 木	30 日	30 水	
	31 日		31 金	31 月		

10月	11月	12月	2021年1月	2月	3月
1 木	1 日	1 火	1 金	1 月	1 月
2 金	2 月	2 水	2 土	2 火	2 火
3 土	3 火	3 木	3 日	3 水	3 水
4 日 講4B	4 水	4 金	4 月	4 木	4 木
5 月	5 木	5 土	5 火	5 金	5 金
6 火	6 金	6 日	6 水	6 土	6 土
7 水	7 土	7 月	7 木	7 日	7 日
8 木	8 日	8 火	8 金	8 月	8 月
9 金	9 月	9 水	9 土	9 火	9 火
10 土	10 火	10 木	10 日	10 水	10 水
11 日	11 水	11 金	11 月	11 木	11 木
12 月	12 木	12 土	12 火	12 金	12 金
13 火	13 金	13 日	13 水	13 土	13 土
14 水	14 土	14 月	14 木	14 日	14 日
15 木	15 日	15 火	15 金	15 月	15 月
16 金	16 月	16 水	16 土	16 火	16 火
17 土	17 火	17 木	17 日	17 水	17 水
18 日	18 水	18 金	18 月	18 木	18 木
19 月	19 木	19 土	19 火	19 金	19 金
20 火	20 金	20 日	20 水	20 土	20 土
21 水	21 土	21 月	21 木	21 日	21 日
22 木	22 日	22 火	22 金	22 月	22 月
23 金	23 月	23 水	23 土	23 火	23 火
24 土	24 火	24 木	24 日	24 水	24 水
25 日	25 水	25 金	25 月	25 木	25 木
26 月	26 木	26 土	26 火	26 金	26 金
27 火	27 金	27 日	27 水	27 土	27 土
28 水	28 土	28 月	28 木	28 日	28 日
29 木	29 日	29 火	29 金		29 月
30 金	30 月	30 水	30 土		30 火
31 土		31 木	31 日		31 水

(注) 各公開講座の略称は下記の通り

- 第3回人間関係講座(ベーシック)→講3B
- 第4回人間関係講座(ベーシック)→講4B
- 第113回人間関係講座(グループ)→講113G
- 第114回人間関係講座(グループ)→講114G
- 第115回人間関係講座(コミュニケーション)→講115C

- 体験学習ファシリテーション(アドバンス)→体験FA(アドバンス)
- グループプロセス・ファシリテーション→GPファシリテーション
- パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ(ベーシック)→PCA(ベーシック)
- パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ(アドバンス)→PCA(アドバンス)
- パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ ベーシック・エンカウンター・グループ→PCAエンカウンター

人間関係研究センター事務局休業予定日

自分の人間関係やコミュニケーションの理解のために 人間関係講座(ベーシック) 第3回(春)/第4回(秋)

この講座では、「体験学習」という方法を用いて、自分の日常の中で起こっていることに目を向けながら、人間関係やコミュニケーションについて学んでいきます。

私たちが日常を過ごす中で、人間関係やコミュニケーションはとても重要な役割を果たしています。しかし、慌ただしい毎日の中では、あまりゆっくり考えたり、ふりかえったりすることもなく過ごしていることが多いのではないのでしょうか。

この講座では、日々の中で自分が当たり前のように体験していることや感じていることに目を向け、そこで起こっていることに気づき、言葉にしてみることを通して、自分自身の中や、関わりの中で起こっていることを捉える試みをしていきたいと考えています。

この講座のねらいは、以下の3つの分野です。

- ①自分を知る
- ②「体験から学ぶ」ということを知る
- ③わかちあうことを通して、それぞれの中で起こっていることに気づく

この講座では、ラボラトリー方式の体験学習を用いた実習と、体験学習に関する理論の小講義を通して学んでいきます。自分の人間関係や、自分自身について一度ふりかえったり、考えてみたいと感じている方にお勧めです。

【プログラムの内容(予定)】

小講義「体験学習のサイクル」「コンテンツとプロセス」「フィードバックの留意点」など
日常のコミュニケーションや人間関係のふりかえりとわかちあい
自己分析
グループでのコンセンサス実習とふりかえり

第3回人間関係講座(ベーシック)[春]

担当者 池田 満・土屋 耕治
日程 2020年5月9日(土) 10:00~17:00
会場 南山大学 D棟

第4回人間関係講座(ベーシック)[秋]

担当者 中尾 陽子・池田 満
日程 2020年10月4日(日) 10:00~17:00
会場 南山大学 D棟

両講座は同じ内容で実施されます。どちらか一方の講座にお申し込みください。

定員 各24名

受講料 各4,950円(税込)

※テキストとして『人間関係トレーニング第2版』(ナカニシヤ出版、定価¥2,200(税別))を使用します。テキストは初日に受付にて販売します。

(ご注意) この講座は、ラボラトリー方式の体験学習を初めて受講される方を対象としたプログラムです。人間関係講座(ベーシック、グループ、コミュニケーション)は体験学習を用いた講座です。受講生の方は実際に実習に参加し、グループやペアになり相手と関わります。身体的・精神的な治療のため通院中などの理由でご心配な方は当センターまでご相談ください。

グループの中での人間関係の理解のために

人間関係講座(グループ) 第113回(夏)/第114回(冬)

この講座では、「体験学習」という方法を用いて、グループの中で起こってくる様々な事柄を捉える視点を養うことを目指します。

私たちは、会社や組織、家族や仲間関係など、様々なグループに身をおいています。そのなかでは、どのようなことが起こっているのでしょうか。講座では、取り組んでいる事柄（コンテンツ）だけではなく、人と課題の関わりや人と人との関わり（プロセス）について見ていく枠組みをご紹介します。

この講座のねらいは、以下の2つの分野です。

- ①グループの中での人間関係（グループプロセス）に目を向け、グループプロセスに気づく力を養う
- ②グループの中での自分や他者の特徴に気づく

この講座では、ラボラトリー方式の体験学習を用いた実習と、グループに関する理論の小講義によって学習を進めていきます。実際にグループの実習へ参加し、その過程を丁寧にふりかえり、メンバーとわかちあうことを通して、起こっていることに目を向けていきます。そのなかでは、グループの中での自分や他者の特徴についても理解が深まることが期待されます。グループの人間関係について関心がある方、理解を深めたい方にお勧めです。

【プログラムの内容（予定）】

小講義「グループプロセスとは?」「グループでの意思決定」「リーダーシップ」など
 グループでの問題解決実習
 グループでのコンセンサス実習
 グループでの制作型実習

第113回人間関係講座(グループ)[夏]

担当者 楠本 和彦・中尾 陽子
 日 程 2020年7月4日(土) 10:00~18:00
 7月5日(日) 9:00~17:00
 会 場 南山大学 D棟

第114回人間関係講座(グループ)[冬]

担当者 中村 和彦・森泉 哲
 日 程 2021年1月23日(土) 10:00~18:00
 1月24日(日) 9:00~17:00
 会 場 南山大学 D棟

両講座は同じ内容で実施されます。どちらか一方の講座にお申し込みください。

定 員 各24名

受講料 各11,550円(税込)

※テキストとして『人間関係トレーニング第2版』（ナカニシヤ出版、定価¥2,200(税別))を使用します。テキストは初日に受付にて販売します。

(ご注意) 人間関係講座（ベーシック、グループ、コミュニケーション）は体験学習を用いた講座です。受講生の方は実際に実習に参加し、グループやペアになり相手と関わります。身体的・精神的な治療のため通院中などの理由でご心配な方は当センターまでご相談ください。

自己理解と対人コミュニケーション能力アップのために

人間関係講座(コミュニケーション) 第115回

この講座では、「体験学習」という方法を用いて、人間関係における自分自身のあり方とコミュニケーションの傾向に気づき、自己成長に向けた手がかりを掴んでいくことを目指します。

私たちは他者とのコミュニケーションを通して、相手とわかりあえた感じがして嬉しくなる体験や、逆に、どうしてこんな風に受け取られてしまうのだろう？と驚いてしまうような体験をすることがあります。このような時、私たちのコミュニケーションの中では、一体どのようなことが起きているのでしょうか。

この講座では、コミュニケーションに影響を及ぼす諸要素のうち、特に“自己理解と対人コミュニケーション”に焦点を当てながら、自分を見つめていきます。

この講座のねらいは、以下の2つの分野です。

- ①話したり聴いたりする時のコミュニケーションプロセスや自分の特徴に気づき、その気づきを日常のコミュニケーションに活かす
- ②自分自身の価値観・感情・興味など、自己理解を深める

この講座では、ラボラトリー方式の体験学習を用いた実習と、自己やコミュニケーションに関する理論の小講義を通して学んでいきます。ゆっくりと自分を見つめたり、他者と話し・聴く中で生まれた気づきをわかちあう体験から、自分への理解が深まっていくことが期待されます。自分についてより深く知りたい方、日常や仕事上でのコミュニケーションで相手の話をよりよく聴けるようになりたい方、日々のコミュニケーションで起こっている気がかりなことについて一度考えてみたい方にお勧めです。

【プログラムの内容 (予定)】

小講義「自己概念」「コンテンツとプロセス」

自己理解を深める実習

コミュニケーション実習

担当者 伊東 留美・大塚 弥生
日程 2020年10月17日(土) 10:00~18:00
10月18日(日) 9:00~17:00

定員 24名
会場 南山大学 D棟
受講料 11,550円〈税込〉

※テキストとして『人間関係トレーニング第2版』(ナカニシヤ出版、定価¥2,200〈税別〉)を使用します。テキストは初日に受付にて販売します。

(ご注意) 人間関係講座(ベーシック、グループ、コミュニケーション)は体験学習を用いた講座です。受講生の方は実際に実習に参加し、グループやペアになり相手と関わります。身体的・精神的な治療のため通院中などの理由でご心配な方は当センターまでご相談ください。

深いかかわりから学ぶ
Tグループ〔人間関係トレーニング〕 第32回

日本の各地から集まったさまざまな人々と八ヶ岳を目の前に仰ぐ清里の豊かな自然はあなたが、人と人との関わりを探究するのを豊かにささえてくれるでしょう。



本当の自分自身でいられることの深い充足感
 人と人が関わるプロセスの変化に富んだ姿
 対話の中で人の心に触れた瞬間の感動
 深いところで自己と対面した驚き
 ズッシリとした学びの手応え



人間関係の体験学習の中でも、特に密度の濃い体験のできるトレーニングが「Tグループ」とよばれる集中的集団体験です。その中から、深く豊かな気づきや学びが生まれます。

10名程度が1グループになって、自由な雰囲気の中で対話を続けていくと、自己理解や他者理解、受容や共感、傾聴や援助関係、コミュニケーションやグループプロセス、などにかかわる様々な現象が起こります。その時その場に起こっている人間関係や自分や他者のありようについて、気づいたことや感じたことをお互いにフィードバックしあうことによって、生の人間関係から学ぶことが可能になるのです。

Tグループに代表されるラボラトリー方式の体験学習に参加し学ぶことを通して、現代社会の中に信頼の風土や人と人とのつながりを創り出す変革推進者（change agent）として、人々とともに生きられるようになることが期待されています。

気づいたこと・学んだこと・楽しんだこと（参加者アンケートより）

- ・グループにおける作用について、体験を通して感じとり、学びとることができた。体験を通しての学びは、自分にとってとても大きなものだった。
- ・人は一人では生きられない。ともにあって、それぞれの価値を認め合い信頼しあうことのすばらしさを実感。

担当者	楠本 和彦・中村 和彦 他
日程	2021年3月2日(火)～3月7日(日) 5泊6日(清泉寮) フォローアップ 2021年7月11日(日)予定 10:00～16:00(南山大学 D棟)
定員	18名
会場	(財)KEEP協会・清泉寮 〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里3545
参加費	受講料 87,670円〈税込〉 滞在費 61,600円〈税込〉予定 (ツイン利用、宿泊・食事含む) ※現地徴収
※ <u>宿泊制プログラムのため、上記施設にご宿泊いただきます。また、グループでの体験学習方式で進めるため、全日程にご参加いただく必要があります。</u>	

※このトレーニングでは、グループでの話し合いの録音やふりかえり用紙を、グループ内での共有の学習の素材とするための同意書の提出が求められます。また、心的葛藤やストレスを経験することもありますので、現在身体的あるいは精神的な治療のための通院やカウンセリングを受けておられる方は、担当医師・カウンセラーとご相談のうえお申し込みください。ご不明な点は当センターまでご相談ください。

(ご注意) 初回者優遇措置講座：2019年度が開催中止となったため、2018年度に実施されたTグループを修了された方は、お申し込みいただくことができません。ご了承ください。

グループプロセス・ファシリテーション 第1回

この講座は、人間関係講座（グループ）を修了された方を対象として、グループの人間関係についてより深く理解し、グループに働きかける（ファシリテーション）力を養うことをねらいとして開講します。これまでの「グループ・ファシリテーター体験講座」の内容を見直して開発した、当センター独自のプログラムです。他のグループのファシリテーターとなり（＝外部ファシリテーター）、グループのプロセスを観察して働きかける体験から、グループが自ら進んでいく力を助けるファシリテーションについて体験から学んでいきます。

この講座では、参加者は6名の小グループに分かれ、各グループで課題に取り組みます。それらの課題に取り組むグループに、他のグループから外部ファシリテーターとして入り、課題の推進（＝タスク・プロセス）とメンバー間の関係性（メンテナンス・プロセス）に働きかけていきます。ファシリテーターによる働きかけとその影響やグループのプロセスをふりかえるセッションを通して、ファシリテーターの働きかけについて体験から学んでいきます。講座期間中、2回のファシリテーター体験ができる予定です。

また、グループやファシリテーションに関する理論からも学びます。小講義として、「グループプロセスを観察する視点」、「ファシリテーションの考え方や働きかけ」、「グループの発達・成長」などが適宜行われます。

グループの人間関係についての理解をより深めたいという方、グループプロセスに気づく力を高めたい方、職場のチーム・ビルディングを試みたいというリーダーやマネージャーの方、組織開発のファシリテーションの力を高めたい方、などにお勧めです。

担当者	中村 和彦・土屋 耕治
日程	2020年8月29日(土)10:00~18:00、8月30日(日)9:00~17:00 9月19日(土)10:00~18:00、9月20日(日)9:00~17:00 ※通いの講座です(合宿講座ではありません) 計4日
定員	24名
参加資格	当センターの「人間関係講座(グループ)」を修了された方、もしくは「第113回人間関係講座(グループ) [夏]」を受講予定の方
会場	南山大学 D棟
受講料	35,420円〈税込〉
	※グループでの体験学習方式で進めるため、 <u>全日程にご参加いただく必要があります。</u>

体験学習を活用したい人のために【ファシリテーター・トレーニング】 体験学習ファシリテーション〈アドバンス〉第2回

人間関係講座などの「体験学習」を体験された方が、教育方法としての「ラボラトリー方式の体験学習」について理解を深めるための講座です。

近年、学校や企業はもちろん医療や福祉の領域でも学習者参加型や体験学習型の教育研修が求められています。これらの教育研修を実施していく際には、学習者との対話や臨機応変な対応など、マニュアル化できない要素が大切になります。

この講座では、実際に参加者が体験学習をプランし実施してみることによって、学習者中心の教育観についての理解を深め、ファシリテーターとしての関わり方やスキルを磨くことに取り組みます。この講座自体が体験学習の場になりますから、ファシリテーターとしてのトレーニングだけでなく自分自身の人間的成長の機会にもなります。

特にアドバンス体験学習では、

- ・体験学習のプログラムを自分たちで計画し実践してみる（ファシリテーター体験）
- ・体験学習をみずから体験してみる（参加者体験）

この2つの役割を受講者が交代で体験しながら、実践的に学んでいきます。

この講座によって、

- ・体験学習とは何か——体験学習の理論と実際
- ・なぜ体験学習なのか——教育の原点を問う
- ・体験学習のすすめ方——プログラムを作り、実施するスキルを養う
- ・体験学習をすすめるファシリテーターのあり方——教育者の原点を問う
- ・体験学習の生かし方——学校、企業、病院、生涯学習などにおける体験学習の現場への応用

などを学ぶことができますでしょう。



気づいたこと・学んだこと・楽しんだこと（参加者アンケートより）

- ・体験学習への探求心がさらに芽生えて、今後の目標ができました。
- ・実習を制作するためのグループ活動で、ファシリテーターの動きも考えてチャレンジすることができた。

担当者	楠本 和彦
日程	2021年2月14日(日) 13:30開始 2月17日(水) 17:00終了予定（3泊4日）
定員	24名
参加資格	当センターの人間関係講座(グループ、コミュニケーション)を修了された方、またはそれに準ずる経験をお持ちの方 ※ベーシックのみは不可(不明の場合はお問い合わせください)
会場	南山学園研修センター（研修・宿泊） 〒466-0834 名古屋市中昭和区広路町隼人30 TEL 052-837-6466
参加費	受講料 45,760円〈税込〉 滞在費 17,475円〈税込〉(宿泊・食事を含む)
※ <u>宿泊制プログラムのため、上記施設にご宿泊いただきます。また、グループでの体験学習方式で進めるため、全日程にご参加いただく必要があります。</u>	

(ご注意) 初回者優遇措置講座：2018年度に実施された体験学習ファシリテーション〈アドバンス〉を修了された方は、第1次受付期間中はお申し込みいただけません。第2次受付開始以降にお申し込みください。

“協同”で学ぶ、“協同”を学ぶ教育実践

協同学習ワークショップ〈ベーシック〉第13回

協同学習では、互いに協力して学習課題に取り組むなかで、学習内容の理解はもとより、対人関係をはじめとしたさまざまな社会的スキルが獲得されます。近年、日本の教育界においても数多くの実践が報告され、その有効性が確かめられています。

このワークショップは、日本協同教育学会（JASCE）が認定した基礎講座で、協同学習法に関する本格的なトレーニングの入門コースです。今回の基礎講座では、協同教育の理念や基本概念を紹介します。そして、参加者の皆さんに協同学習の技法を実際に体験していただきながら、以下の内容を中心に共に考えていきます。

- ・ 協同の考え方に立つ学習観・教育観
- ・ グループ学習と協同学習の違い
- ・ 協同学習の定義
- ・ 協同学習に必要な個人思考と集団思考
- ・ 各種技法とその応用



このワークショップは2日間にわたりますが、修了者には日本協同教育学会から修了証が出ます。この修了証はより上級の講座への受講資格となります。

気づいたこと・学んだこと・楽しんだこと（参加者アンケートより）

- ・ 体験を通して、定義・理念の理解が深まった。
- ・ 今まで我流でやってきたことが理論的に学べ、何が足りないのかがわかり、納得・安心した。
- ・ 現場ですぐ実践できるヒントがあった。

担当者 石田 裕久・和田 珠実

日程 2020年8月22日(土)、23日(日) 10:00~16:00

定員 32名

会場 南山大学 D棟

受講料 12,650円〈税込〉

※テキストとして『協同学習法ワークショップ〈ベーシック〉』（日本協同教育学会、¥1,000）を使用します。テキストは初日に受付にて販売します。

“協同”で学ぶ、“協同”を学ぶ教育実践

協同学習ワークショップ〈アドバンス〉第13回

協同学習では、互いに協力して学習課題に取り組むなかで、「自らの学びが仲間の役に立ち、仲間の学びが自分の役に立つ」経験を通して、教科内容の理解とともに、対人関係をはじめとするさまざまな社会的スキルの育成を図ります。このワークショップでは、クラスを「協同」による主体的な学びの場とするための考え方や技法を、実習しながら学んでいただきます。

この協同学習ワークショップはアドバンス・コースです。受講資格は、すでに日本協同教育学会（JASCE）主催の協同学習ワークショップ「ベーシック」もしくは「基礎講座Ⅰ～Ⅲ」を修了された方とさせていただきます。協同学習法の教育観や具体的な指導法をもっと学びたい方、学級づくりや授業実践に協同学習をとり入れたい方の参加をお待ちしております。

このワークショップは2日間にわたりますが、修了者には日本協同教育学会から修了証が出ます。この修了証はより上級の講座への受講資格となります。



気づいたこと・学んだこと（参加者アンケートより）

- ・協同学習の技法だけではなく考え方が理解でき、今後の実践への糸口がつかめた。
- ・学校だけでなく、大人の学びにも十分活かせると思う。
- ・現場でかかえている問題を解決する方向性が見えた。

担当者	石田 裕久・長濱 文与
日程	2020年11月7日(土)、8日(日) 10:00~16:00
定員	32名
参加資格	日本協同教育学会(JASCE)主催の協同学習ワークショップ「ベーシック」もしくは「基礎講座Ⅰ～Ⅲ」を修了された方
会場	南山大学 D棟
受講料	12,650円〈税込〉
※テキストとして『協同学習法ワークショップ〈アドバンス〉』（日本協同教育学会、¥1,000）を使用します。テキストは初日に受付にて販売します。	

「人間尊重の心理学」を体験的に学ぶ

パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ(ベーシック) 第2回

パーソンセンタード・アプローチとは、アメリカの臨床心理学者、カール・ロジャースが発展させた人間尊重のありようや姿勢をさします。ロジャースは、当初、「クライエント中心療法」という今日のカウンセリングや心理療法の基礎理論を発展させましたが、のちに、そういった心理臨床の世界に留まらない、様々な場面での人間尊重の姿勢を重視するパーソンセンタード・アプローチを展開していきました。

パーソンセンタード・アプローチは、人が誰でも持っている、よりよくいきていこうとする力(実現傾向)を信頼し、自分も相手も大切にできるような自他尊重の関係を探求していくことが基本です。こういった考えは心理臨床家に限らず、教育者も看護者もグループやコミュニティでの実践者にとっても大切な視点といえるでしょう。

このワークショップではパーソンセンタード・アプローチを学ぶための、はじめの一步として、その基礎概念を体験的に学ぶことを目的としています。2日間、自分と相手をエクササイズやワークを通して味わうことで実感からパーソンセンタード・アプローチについて、それぞれなりの理解の手がかりをつかめればと思っています。

パーソンセンタード・カウンセリングについて学びたい心理臨床家、カウンセラー、人間中心の教育について学びたい教育関係者、子どもとの対話を深めたい親や養育者、対話ある職場をめざす企業関係者など、自分も相手も大切にしたい関係に関心を持つ方などをこのワークショップのターゲットと考えています。

なお、このワークショップは<ベーシック>とあるように、のちに予定しているパーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ<アドバンス>の前提としてプランニングされています。

担当者	坂中 正義・青木 剛・大島 利伸
日程	2020年5月23日(土) 10:00~17:00 5月24日(日) 9:30~17:00

定員	24名
会場	南山大学 D棟
受講料	15,730円(税込)

※テキストとして「傾聴の心理学：PCAを学ぶ」(創元社、定価2,300円(税別))を使用します。
テキストは初日に受付にて販売します。

(ご注意) このワークショップは、治療を目的としておりません。自己理解・他者理解のためのエクササイズやワークを中心に展開してゆきます。その際、ペアやグループでの他のメンバーとの関わることも多々あります。現在、治療・カウンセリングなどを受けておられる方、あるいはその必要のある方は、治療者・カウンセラーなどの同意を得たうえで申し込みください。

「人間尊重の心理学」を体験的にさらに学ぶ

パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ(アドバンス) パーソンセンタード・リスニング 第1回

パーソンセンタード・アプローチとは、アメリカの臨床心理学者、カール・ロジャースが発展させた人間尊重のありようや姿勢をさします。ロジャースは、当初、「クライエント中心療法」という今日のカウンセリングや心理療法の基礎理論を発展させましたが、のちに、そういった心理臨床の世界に留まらない、様々な場面での人間尊重の姿勢を重視するパーソンセンタード・アプローチを展開していきました。

パーソンセンタード・アプローチは、人は誰しも自分のもつ可能性を発揮したいという傾向（実現傾向）への信頼と、自分も相手も大切にするという自他尊重の関係性の探求が基本です。こういった考えは心理臨床家に限らず、教育者も、看護者も、グループやコミュニティでの実践者も大切な視点といえるでしょう。

このワークショップではパーソンセンタード・アプローチの基礎概念が理解されていることを前提として、その基礎概念をいかしたパーソンセンタード・リスニングを体験的に学ぶことを目的としています。2日間、自分と相手を味わうことを基盤とし、味わう中で生まれる実感を活用したパーソンセンタード・リスニングのそれぞれなりの手がかりをつかめればと思っています。

パーソンセンタード・カウンセリングについて学びたい心理臨床家、カウンセラー、人間中心の教育について学びたい教育関係者、子どもとの対話を深めたい親や養育者、対話ある職場をめざす企業関係者など、自分も相手も大切にしたい関係に関心を持つ方をターゲットに考えています。

なお、このワークショップは〈アドバンス〉とあるように、既に予定されている〈ベーシック〉を修了していることを前提としてプランニングされています。この〈アドバンス〉としてのパーソンセンタード・リスニングでは、〈ベーシック〉での体験をふまえて、さらに傾聴についての理解を深めます。

担当者	坂中 正義・青木 剛・大島 利伸
日程	2020年10月24日(土) 10:00~17:00 10月25日(日) 9:30~17:00
定員	24名
参加資格	パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ〈ベーシック〉を修了していることが前提となります。
会場	南山大学 D棟
受講料	15,730円〈税込〉
	※パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ〈ベーシック〉にて使用したテキスト「傾聴の心理学：PCAを学ぶ」を当日お持ちください。

(ご注意) このワークショップは、治療を目的としておりません。自己理解・他者理解のためのエクササイズやワークを中心に展開してゆきます。その際、ペアやグループでの他のメンバーとの関わることも多々あります。現在、治療・カウンセリングなどを受けておられる方、あるいはその必要のある方は、治療者・カウンセラーなどの同意を得たうえで申し込みください。

「人間尊重の心理学」を体験的に学ぶ

パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ・ベーシック・エンカウンター・グループ 第1回

パーソンセンタード・アプローチとは、アメリカの臨床心理学者、カール・ロジャースが発展させた人間尊重のありようや姿勢をさします。ロジャースは、当初、「クライエント中心療法」という今日のカウンセリングや心理療法の基礎理論を発展させましたが、のちに、そういった心理臨床の世界に留まらない、様々な場面での人間尊重の姿勢を重視するパーソンセンタード・アプローチを展開していきました。

パーソンセンタード・アプローチは、人が誰でも持っている、よりよくいきていこうとする力（実現傾向）を信頼し、自分も相手も大切にできるような自他尊重の関係を探求していくことが基本です。こういった考えは心理臨床家に限らず、教育者も看護者もグループやコミュニティでの実践者にとっても大切な視点といえるでしょう。

ベーシック・エンカウンター・グループは、パーソンセンタード・アプローチの代表的なグループ・プログラムです。

7名程度の人間が同じ場所と時間を共にしていきます。何をするかをあらかじめ決めないで、そこにいる人間の自発的な「語る／聴く」というやりとりを積み重ねながら、お互いを大切に出来るような安全感・信頼感のある場をみんなで作っていきます。そんな中での自分や他者とのふれあい・出会いの体験が期待できるグループがベーシック・エンカウンター・グループです。

パーソンセンタード・カウンセリングについて学びたい心理臨床家、カウンセラー、人間中心の教育について学びたい教育関係者、子どもとの対話を深めたい親や養育者、対話ある職場をめざす企業関係者など、自分も相手も大切にしたい関係に関心を持つ方などをこのワークショップのターゲットと考えています。

担 当 者	坂中 正義・楠本 和彦・青木 剛・大島 利伸
日 程	2020年8月11日(火) 13:00 ~ 8月13日(木) 16:00 2泊3日
定 員	14名
会 場	南山学園研修センター (研修・宿泊) 〒466-0834 名古屋市昭和区広路町隼人30 TEL 052-837-6466
参 加 費	受講料 30,250円〈税込〉 滞在費 11,650円〈税込〉(宿泊・食事を含む)
※宿泊制プログラムのため、上記施設にご宿泊いただき全日程にご参加いただく必要があります。	

ご注意) このワークショップは、治療を目的としておりません。現在身体的あるいは精神的な治療のための通院やカウンセリングを受けておられる方、あるいはその必要のある方は、担当医師・カウンセラー等の同意を得た上で申し込みください。同意のない場合の参加はお断りすることがあります。

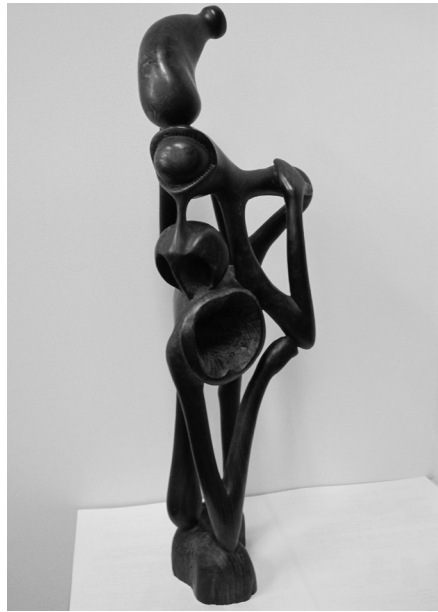
からだの叡智をみがく

ボディワーク・セミナー 第13回

「からだ」という窓から、自分自身、他者、そして私たちのライフスタイルとその拠って立つ地球という環境を眺めてみると、今なにが見えてくるでしょう。この講座では、ゆっくりと呼吸を深くし、いのちとスピリットの宮である「からだ」の内に静かに座し、見えてきたものを共に分かち合い、未来に向けて喜びに満ちたヴィジョンを創造することができればと願っています。

身体的存在としての私たちに備わっている、からだの叡智・心の叡智・頭の叡智という三つの叡智。その与えられている自分の叡智の理解を深め、どのように生き生きと豊かにしていくか考えたいと思います。そしてボディワークによってどのような力が育まれるのか、皆さんと一緒に探究していきたいと思います。

心身の調和的在り方を促進する「シン・インテグレーション」という技法の体験も予定しています。からだとゆっくり対話する時間を持ち、自分自身のいのちのリズムを取りもどしたいと思います。



アフリカ・マコンデ族「五感の彫刻」

気づいたこと・学んだこと・楽しんだこと(参加者アンケートより)

- ・目を閉じてのお散歩は最初は恐怖でしたが、見えないことから他の感覚への意識が高められたことが驚きでした。
- ・自分の中にあるものを信じるということ、その信じたままを表現していく大切さに気付きました。五感を大切にすることは、自分を大切に、愛すること。忘れずにいたいです。
- ・人と関わる中で、安心感や信頼感を得られたことが大きかったです。
- ・頭と心をつなぐために体と対話すること、大切さはなんとなく感じていたが、実感はなかった。大切さの実感を得ることができたことに大きな意味を感じました。
- ・自分に目を向ける、自分のもつ感覚に意識を向けていくことで体と対話ができるような気がした。
- ・分かち合いが出来たこと。一人では気づけない。また、口に出して話していくうちに私の思いが明らかになっていく。

担当者 畑山 知子・ゲストプラクティショナー (シン・インテグレーション)

日程 2020年9月26日(土)、27日(日) 4日間
10月10日(土)、11日(日) 10:00~17:00

定員 24名

会場 南山大学 D棟

受講料 30,360円〈税込〉

※テキストとして『新・ボディワークのすすめ—からだの叡智が語る私・いのち・未来』(創元社、定価¥1,980〈税込〉)を使用します。テキストは初日に受付にて販売します。

※ゆったりとからだを動かせる服装でおいでください。

海外からの講師招聘による組織開発の講座の実施

人間関係研究センターは、Tグループやラボラトリー方式の体験学習、そして、組織開発を誕生させ発展させてきた機関である米国NTL Institute（正式名：NTL Institute for Applied Behavioral Science; 以下NTLと略す）とパートナーシップを提携しています。NTLはTグループを実施するために1947年に設立されました。その後、Tグループやラボラトリー方式の体験学習を用いた研修を長年実施するとともに、ヒューマニスティックで民主的な価値観に基づいた組織開発（Organization Development）の理論と手法を発展させてきました。

当センターでは2009年度より、NTLメンバーを中心とした講師を日本に招聘し、組織開発に関する講座や公開講演会を実施してきました。

公開講座「組織開発ラボラトリー」開催実績

2009年度第1回組織開発ラボラトリー

「Group Process Consultation（グループプロセス・コンサルテーション）」

講師：チャック・フィリップス氏（組織開発コンサルタント）

2010年度第2回組織開発ラボラトリー

「Dealing with Covert Processes（隠れたプロセスを取り扱う）」

講師：ロバート・マーシャク氏（NTL Instituteメンバー）

2011年度第3回組織開発ラボラトリー

「Theory & Practice in Organization Development（組織開発の理論と実践）」

講師：ブレンダ・ジョーンズ氏（NTL Institute代表）

2012年度第4回組織開発ラボラトリー

「Diagnosing Organizations with Impact（影響力のある組織診断）」

講師：ジュリー A.C. スーラン氏（NTL Instituteメンバー）

2013年度第5回組織開発ラボラトリー

「Start up OD and Intervention Strategies（組織開発のスタートアップ&働きかけの戦略）」

講師：パトリスシア・バイドル・パドゥヴァ氏（NTL Instituteメンバー）

2014年度第6回組織開発ラボラトリー

「Facilitating and Managing Complex Systems Change（複雑なシステムの変革をファシリテートし対処する）」

講師：ディートラス・ラコアー氏（NTL Instituteメンバー）

2015年度第7回組織開発ラボラトリー

「Group Process Consulting in Organization（組織におけるグループプロセス・コンサルティング）」

講師：メアリー・アン・レイニー氏（NTL Instituteメンバー）

2016年度第8回組織開発ラボラトリー

「Self Mastery: Enhancing Use of Self as an Organization Development Practitioner（セルフ・マスタリー（自己の熟達）：組織開発実践者としてのユース・オブ・セルフを高める）」

講師：ジョン・カーター氏、他3名（ゲシュタルトOSDセンター）

2018年度第9回組織開発ラボラトリー

「Dialogic Organization Development: A 2 Day Workshop with Dr.Gervase Bushe（ジャーヴァス・ブッシュ氏による対話型組織開発ワークショップ）」

講師：ジャーヴァス・ブッシュ氏（サイモン・フレザー大学教授）

2019年度第10回組織開発ラボラトリー

①「Working with Complexity（複雑性に働きかける）」②「Hosting and holding containers（コンテナをホストしホールドする）」

講師：クリス・コリガン氏、ケイトリン・フロスト氏（ハーベストムーン・コンサルティング）

企画／コーディネーター：中村 和彦（南山大学人文学部心理人間学科教授）



2019年度 第10回 組織開発ラボラトリー実施報告

「Working with Complexity」「Hosting and holding containers」 （「複雑性に働きかける」「コンテナをホストしホールドする」）

2019年度の本センター主催「組織開発ラボラトリー」は、2つのワークショップが行われました。2019年6月7日（金）～8日（土）の2日間の合宿講座「複雑性に働きかける」と、6月9日（日）の1日講座「コンテナをホストしホールドする」です。講師はカナダから招聘したクリス・コリガンさんとケイトリン・フロストさんで、社団法人サステナビリティダイアログとの共催で実施されました。

クリス・コリガンさんとケイトリン・フロストさんは、対話を通しての変革の実践に長年携わり、組織やコミュニティの諸問題に対処する実践の専門家です。クリス・コリガンさんは「対話型組織開発」の第13章の著者でもあります。コミュニティの諸問題は多様な人々の間で起こる複雑なプロセスによって生じており、そのような複雑なシステムに対話を通して働きかける、豊かな実践経験をお持ちの講師によって今回の講座が行われました。

2日間の合宿講座「複雑性に働きかける」には、30名の皆さんにご参加いただきました。複雑なシステムを理解するための考え方について、さまざまな実習や講師による解説を通して考えていくワークショップでした。人間のシステムは「複雑な」ものであり、カネヴィン・フレームワークがその理解に役立ちます。カネヴィン・フレームワークでは、ものごとや諸問題を「明確な」「煩雑な」「複雑な」「混とんとした」の4つに分けています。このモデルでは、「煩雑な」ものごとや問題と、「複雑な」ものとを区別しています。「煩雑な」問題とは、原因と結果が明白なわけではありませんが、分析を通して原因と結果を予測することが可能なものです。すぐに原因がわからない機械的な不具合などはこれに該当します。一方の「複雑な」ものごとや問題とは、複雑な要素が絡み合っている種のパターンが起きますが、原因と結果は事後的にしか理解できないものです。人と人との間で起こるプロセス（特に多様な人々の間で起こるプロセス）は複雑であり、複雑系（複雑なシステム）と言えます。「明確な」問題や「煩雑な」問題に対しては原因を特定することで問題を解決することが有効です。しかし、複雑なシステムにおいては、問題を解決しようとするのではなく、パターンを変化させることが必要だとされています。そして、パターンを変化させるために、実践者が自分自身を用いる（＝セルフとともに働きかける）ありようについて考えていきました。ちなみに、1日目の夜には、ギタリストでもあるクリスが弾き語りをし、参加者の皆さんとともに楽しい時を過ごすことができました。

6月9日（日）には1日講座「コンテナをホストしホールドする」は南山大学D51教室で行われ、2日間の合宿講座にご参加いただいた皆さんに加え、この日だけの参加者20名の方々にもご参加いただきました。コンテナとは何かの解説から始まり、コンテナを捉える視点としてのABIDEモデルの紹介、対話の方法であるサークルの体験、などがなされました。2日間の合宿講座から継続して参加された方にとっては、学びがさらに広がったワークショップになったことと思われまます。一方で、この日だけの参加者の方々にとっては、解説が中心となったこともあり、未消化の部分も残ったかもしれません。クリスさんによる論文がOD Network Japan発行の「組織開発研究」に2020年春に掲載され、オンラインで閲覧できますので、是非さらなる探究をしていただければと願っています。

計3日間のワークショップをファシリテートして下さったクリス・コリガンさんとケイトリン・フロストさん、素晴らしい通訳をして下さった東千恵子さんと福島由美さん、共催として多大なご尽力をいただいた牧原ゆりえさん、グラフィックや裏方として貢献して下さった、グロス梯愛依子さんと反町恭一郎さんに感謝申し上げます。

（講座コーディネーター 中村和彦）



組織開発(Organization Development: OD)とは？

組織開発とは、組織の効果性と健全性を高めることをめざした、計画的で長期的な変革の実践であり、組織文化や人的要因（ワーク・モチベーションや満足度、コミュニケーション、人と人との関係性、協働性、リーダーシップ、規範など）のプロセスに働きかけるための理論や手法の体系です。コーチング、ファシリテーション、チーム・ビルディング、プロセス・コンサルテーション、フューチャーサーチ、AIなど、個別の手法として日本に紹介されているアプローチは、米国において組織開発（OD）の歴史と体系のもとに発展してきました。組織開発の歴史の源の1つはTグループであり、Tグループ誕生の組織であるNTLメンバー（シャイン、バックハド、パークなど）が組織開発の発展に貢献してきました。現在、米国には組織開発を学ぶことができる修士課程や研修プログラムが数多くあります。一方、日本では組織開発を学ぶことができる機会が少ないというのが現状です。

Tグループおよびラボラトリー方式の体験学習の実施機関である当センターは、日本において、組織開発について理論と体験から学ぶ機会を創ることをめざして、2009年度から、米国から講師を招聘して組織開発ラボラトリーを開催しています。また、招聘した講師による、組織開発に関する公開講演会も実施しています。

経営者引退後の人生は人と地域社会のため ～私のカレーなる人生～

2020年5月19日(火) 18:30～20:30

会場：南山大学

石川県に生を受けるが間もなく養護施設に預けられ、4歳で養父母に引き取られるが、ギャンブル狂の養父のため、超貧乏な少年期を過ごしてきた。高校を卒業し不動産業を経て、喫茶業からココイチを開業。自分のことは二の次、自分にかかわる人を第一に考え、宗次流経営哲学に基づき経営に身を捧げ、目標をただひたすら追いつけた結果、右肩上がりの数字を打ち出し、現在は1450店舗を超えるカレーチェーンとなった。しかしながら53歳という若さでココイチ経営から引退後も、経営へのこだわりは変わらず音楽ホール運営にも生かされることとなる。そんなカレーなる転身を果たした。宗次流人生論の中から、新たな人としての姿勢を見いだせるよい機会となるでしょう。

講師 ^{むねつぐ} 宗次 ^{とくじ} 徳二 氏



1948年10月14日生（出身地 石川県）	その他経歴
1967年 3月 愛知県立小牧高等学校卒業	2003年（平成15年）1月
1967年 4月 八洲開発株式会社入社	NPO法人イエロー・エンジェル設立 理事長就任
1970年 2月 大和ハウス工業株式会社入社	
1973年10月 不動産業岩倉沿線土地開業	2007年（平成19年）3月
1974年10月 喫茶店バックス開業	クラシック専用「宗次ホール」オープン 代表就任
1978年 1月 カレーハウス CoCo壱番屋創業	
1982年 7月 株式会社壱番屋設立 代表取締役社長就任	
1998年 6月 株式会社壱番屋 代表取締役会長就任	
2002年 6月 株式会社壱番屋 役員退任	(http://www.munetsugu.jp)

著 書

「宗次流日めくり 達人シリーズ 日々のことば」	2009年11月
「日本一の変人経営者」(ダイヤモンド社)	2009年11月
「CoCo壱番屋 答えはすべてお客様の声にあり」(日経ビジネス人文庫)	2010年10月
「夢を持つな! 目標を持って!」(商業界)	2010年11月

表 彰

アントレプレナー大賞部門	1994年11月
中部ニュービジネス協議会会長賞受賞	
2004年 第6回企業家賞受賞	2004年 6月
まちかどのフィナンソロピスト賞受賞	2007年11月
名古屋市芸術奨励賞受賞	2012年 1月
経済界大賞 社会貢献賞受賞	2017年 1月

参加ご希望の方はWebページからお申込みください。またはFAXにて人間関係研究センターまでお名前・連絡先をお知らせください。なお、席に余裕がある場合は、当日参加も受け付けます。

e-mail : ninkan-c@nanzan-u.ac.jp FAX : 052-832-3202 電話 : 052-832-5002 (10:00～17:00 土日祝日休み)

〔個人情報の取り扱いについて〕 個人情報は、南山大学個人情報保護に関する規程に基づき、適正な利用と保護および必要な安全措置を講じて参ります。今回ご連絡いただきます個人情報は、名簿作成と事務連絡以外には使用いたしません。

2020年度公開講演会

当センターは、広く一般の皆様への人間関係に関する情報の発信基地となるべく、毎年公開講演会を企画しています。参加は無料です。お気軽にご参加ください。

2020年度も公開講演会を開催します。詳細が決まりましたら当センターWebページに公開いたします。最新の情報については当センターWebページをご確認ください。

公開講演会案内ページ

<http://rci.nanzan-u.ac.jp/ninkan/seminar/index.html>

講演会の詳細が決まりましたら、メールマガジン（毎月1回配信）でも、ご案内いたします。ご希望の方はメールマガジンにご登録ください。

メールマガジン申込ページ

<http://rci.nanzan-u.ac.jp/ninkan/center/newsletter.html>

公開講演会

下記は当センターで過去3年間実施された公開講演会です。

実施年度	講師／タイトル（講師の所属は講演会時のものです）
2017年	木村 泰子さん（元大空小学校校長） 「みんながつくる みんなの学校」 —すべての子どもの居場所を地域の学校に一—
	小田 理一郎さん（有限会社チェンジ・エージェント 代表取締役社長兼CEO） 江口 潤さん（有限会社チェンジ・エージェント 組織開発ファシリテーター） 「組織開発のためのシステム思考（基礎編）」
2018年	ジャーヴァス・ブッシュュさん（サイモン・フレーザー大学教授） 「生成的なリーダーシップと対話型組織開発」
	内田 樹さん（神戸女学院大学名誉教授） 「教育法としての修業」
2019年	伊藤 剛さん（株式会社アソボット 代表取締役） 「なぜ戦争は伝わりやすく、平和は伝わりにくいのか」
	村山 正治さん（九州大学名誉教授）
	畠瀬 直子さん（関西人間関係研究センター主任研究員）
	飯長 喜一郎さん（国際医療福祉大学大学院特任教授） 「PCAの道：源流をたどる」



* 過去の公開講演会の内容は、人間関係研究センター紀要『人間関係研究』に掲載されています。関心のある方は、Webページをご覧ください。

刊行物の紹介ページ

<http://rci.nanzan-u.ac.jp/ninkan/publish/>

研究の推進

ラボラトリー方式の体験学習の実践研究を中心に、人間関係の諸領域に関する研究を行っています。外部資金による受託研究の主なものとしては、文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」GP（2007～2008年度）、文部科学省「大学・大学院における教員養成推進プログラム」GP（2005～2006年度）、国際医療センターの受託研究「人間中心の医療の実現に向けての教育プログラムに関する研究」（2003～2004年度）があります。

定例研究会の実施、公開講演会の開催、人間関係に関する研究資料の収集、その他、研究員の研究成果をセンター紀要『人間関係研究』において公表しています。

研究成果の公表：紀要『人間関係研究』

研究・教育成果を広く社会に公表するために研究紀要『人間関係研究』誌を発行しております。掲載論文は当センターWebページでも閲覧可能です。

- 2008年度（第8号）特集「体験学習50年の歩み」
- 2009年度（第9号）特集「協働」
- 2010年度（第10号）特集「未来」
- 2011年度（第11号）特集「結い」
- 2012年度（第12号）特集「共生」
- 2013年度（第13号）特集「共同体の変革」
- 2014年度（第14号）特集「グループの可能性と広がり」
- 2015年度（第15号）特集「体験学習」
- 2016年度（第16号）特集「人間関係再考」
- 2017年度（第17号）特集「グループによる学び」
- 2018年度（第18号）特集「人間関係研究センター40年をふりかえる」
- 2019年度（第19号）特集「NTLと体験学習／組織開発」（2020年3月発刊予定）

在庫のある紀要については
送料実費でお分けします。
請求方法はWebページを
ご覧いただくか、
当センターまで
お問い合わせください。

*当センターの前身である南山短期大学人間関係研究センターからも、研究紀要『人間関係』（全17巻）を発行しております。

定例研究会

当センターは、人間関係に関する研究テーマのもと、毎年、定例研究会を開催しています。下記は当センターで2019年度に実施された定例研究会です。

2019年度

第1回定例研究会

ラウンドテーブル方式

テーマ ラボラトリー方式の体験学習の出版について

第2回定例研究会

発表者 青木 剛 氏

ラウンドテーブル形式

テーマ ラボラトリー方式の体験学習に関するコア理論って何だろう

第3回定例研究会

ラウンドテーブル形式

テーマ ラボラトリー方式の体験学習の再検討

第4回定例研究会

ラウンドテーブル形式

テーマ 現在のラボラトリー方式の学習モデルの見直し

第5回定例研究会

ラウンドテーブル形式

テーマ ラボラトリー方式の体験学習に関するモデルの欠陥点・危険性の考察

第6回定例研究会

ラウンドテーブル形式

テーマ ラボラトリー方式「意味づけ」の考察と書籍の構成について

センター員の社会貢献 (2017~2019年度)

※下記は当センター員が受託した研修・講座・企画の一例です。

研修・講座・企画名等	委託者・主催者
セミナー「組織開発×働き方改革」	OD Network Japan中部分科会
管理職メンタルヘルス対策推進研修会	愛知県教育委員会
FD推進ワークショップ(新任専任教員向け)	私立大学連盟
JIEL第1回ラボラトリー教育カンファレンス	一般社団法人 日本体験学習研究所 (JIEL)
生徒指導連絡協議会第2回研修会	愛知県北設楽郡小中高等学校生徒指導連絡協議会
平成30年度東海地区公立小中学校学校事務研究会 学校事務研修会	東海地区学校事務研究会
50周年記念全国公立小中学校学校事務研究大会(千葉大会)	50周年記念全国公立小中学校学校事務研究大会(千葉大会)実行委員会
平成30年度静岡県教育研究会研究部 拡大研究推進委員会	静岡県教育研究会研究部
パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ ベーシックコース	人間性心理学会中部部会
パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ 清里ベーシック・エンカウンター・グループ	パーソンセンタード・アプローチ研究所
現職教育・心理教育「パーソンセンタード・アプローチの視点から現職教育・心理教育を考えるープログラム構成のポイントー」	愛知県臨床心理士会SC部会
第5期企業内「組織開発(OD)」推進者養成コース	関西生産性本部
中学生の学習支援事業運営責任者研修会「生徒への個別対応ー解決焦点化アプローチの立場から」	名古屋市
eラーニング教員免許状更新講習(選択領域)	一般社団法人教員育成研究機構
子育て支援グループ	南山大学附属小学校
PCAネットワーク東海セルフヘルプグループ	PCAネットワーク東海
PCAケースカンファレンス	PCAネットワーク
パーソンセンタード・アプローチのさらなる発展のための対話	日本心理臨床学会第38回大会
子育て支援講演会「傾聴の心理学ー人間の尊厳のためにー」	南山大学附属小学校
パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ はじめの 一歩	日本人間性心理学会第38回大会
心理臨床からの「こころ」へのアプローチーさまざまな心理療法ーパーソンセンタード・アプローチ	愛知県臨床心理士会研修部会
PCA乗鞍	人間関係研究会
平成31年度学級づくりに生かす教育相談講座	愛知県総合教育センター
教育相談基礎講座(教育臨床相談研修会)	名古屋市教育センター
愛知県総合教育センター看護科講座(高等学校看護科10年研)	愛知県総合教育センター
組織開発事例講座	OD Network Japan
組織開発基礎講座	OD Network Japan
組織開発論	慶應丸の内シティキャンパス
環境への働きかけの可能性ー組織開発の観点からー	キャリアコンサルティング協議会
人間関係づくりトレーニング ーグループワークを通して私の関わり方を学ぶー	愛知県総合教育センター

(順不同)

センター員



中村和彦 Nakamura, Kazuhiko

名古屋大学大学院教育学研究科教育心理学専攻後期博士課程満期退学。修士(教育心理学)。専門は組織開発、ラボラトリー方式の体験学習、グループ・ダイナミックス。米国NTL Institute 組織開発Certificate Program修了。トレーニングや組織開発コンサルティングなど、様々な現場における実践に携わるとともに、実践と研究のリンクをめざしたアクションリサーチに取り組む。南山大学人文学部心理人間学科教授。人間関係研究センター、センター長。



畑山知子 Hatayama, Tomoko

九州大学大学院人間環境学府博士後期課程満期退学。博士(人間環境学)。専門分野はヘルスプロモーションであるが、大学院在学時よりボディワークに関心を持ち、実践を重ねている。現在は、グラバア俊子先生と一緒に看護学生を対象として、対人援助職のためのボディワーク構築をテーマに実践研究をおこなっている。南山大学体育教育センター准教授。



伊東留美 Ito, Rumi

New York University, School of Education, Health, Nursing and Arts Professions, Art Therapy Program修士課程修了。文学修士。American Art Therapy Association認定Art Therapist。臨床心理士。学生相談室や大学の授業の中で、創造的活動を通して自己表現、自己発見のあり方を模索している。南山大学人文学部心理人間学科准教授。



森泉哲 Moriizumi, Satoshi

名古屋大学大学院教育発達科学研究科心理発達科学専攻博士後期課程満期退学。博士(心理学)。University of New Mexico, Department of Communication and Journalism 博士課程修了。Ph.D. (Communication)。関心分野は、社会心理学、対人・異文化コミュニケーション。文化、関係性、コミュニケーションスタイルの関連について研究を行っている。南山大学国際教養学部教授。

青木 剛 Aoki, Tsuyoshi



関西大学大学院心理学研究科博士課程後期課程修了。博士(心理学)。臨床心理士。公認心理師。Focusing Institute認定Focusing Professional。パーソンセンタード・アプローチの中でも、フォーカシング指向心理療法に関する実践・研究や、フォーカシングに関する体験学習を行っている。南山大学人文学部心理人間学科講師。

池田満 Ikeda, Mitsuru



国際基督教大学大学院教育学研究科教育原理専攻心理学専修博士後期課程修了。博士(教育学)。認定心理士。応用心理士。専門社会調査士。心理・社会的問題の解決と予防を目指すプログラムの開発、評価の理論と方法について、実践的を通じた研究を行っている。南山大学人文学部心理人間学科准教授。

楠本和彦 Kusumoto, Kazuhiko

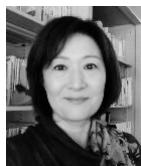


広島大学教育学部心理学科卒業。佛教大学教育学研究科臨床心理学専攻博士後期課程満期退学。教育学博士。臨床心理士。カウンセリングや、グループアプローチにおける人間関係や心のありように関心を持つ。南山大学人文学部心理人間学科教授。

中尾陽子 Nakao, Yoko



名古屋大学大学院人間情報学研究科博士後期課程満期退学。修士(心理学)。南山短期大学人間関係科でラボラトリー方式の体験学習に出会ったことをきっかけに、メンバー一人一人の存在を大切にしたい人間関係づくりに関心をもち、その実践と研究を行なっている。南山大学経営学部准教授。



大塚弥生 Otsuka, Yayoi

奈良教育大学大学院教育研究
科学学校教育専攻教育心理学専修
修士課程修了。修士（教育学）。
カウンセリングやコミュニケーションの
トレーニングに関心を持ち、教育や医療関係者および個人の自己成長を援助する研修を行っている。現在、南山大学教職センター准教授。臨床心理士。

坂中正義 Sakanaka, Masayoshi



九州大学大学院教育学研究科
博士後期課程教育心理学専攻退
学。博士（心理学）。臨床心理士。
公認心理師。クライアント中心
療法、エンカウンター・グループ
といったパーソンセンタード・アプローチ
によるカウンセリング・心理療法、対人援助
（特に援助者の態度論）に関心を持つ。南山
大学人文学部心理人間学科教授。



土屋耕治 Tsuchiya, Koji

名古屋大学大学院教育発達科
学研究科博士後期課程満期退
学。在学中、メルボルン大学訪
問研究員。修士（心理学）。専
門は、社会心理学、組織開発、
体験学習。小集団の力が発揮される過程に興
味を寄せ、実験室実験を行うとともに、T
グループ、組織開発の実践も行う。南山大学人
文学部心理人間学科講師。

宇田光 Uda, Hikaru



名古屋大学大学院教育心理学
専攻博士後期課程満期退学。教
育学修士。「指導方法の改善」
が現在の主な研究テーマである。一方、学生相談室のカウン
セラーや、中学校のスクールカウンセラーと
しての実践経験を持つ。ブリーフ・セラピー
（ブリーフ・カウンセリング）は、学習指導の
観点から見ても興味深い。南山大学教職セン
ター教授。学校心理士、専門生徒指導士。

※職名は2020年4月1日現在（予定）

2020年度 公開講座担当講師

- 当センター員の他、以下の方々に講師としてお越しいたします ●

石田裕久 Ishida, Hirohisa 《担当講座：協同学習ワークショップ〈ベーシック〉〈アドバンス〉》

名古屋大学大学院教育心理学専攻博士後期課程満期退学。教えることと学ぶことにかかわる問題、とりわけ協同的場面での学習をどう組み立てていくか、に関心をもつ。南山大学名誉教授。日本協同教育学会認定トレーナー。

長濱文与 Nagahama, Fumiyo 《担当講座：協同学習ワークショップ〈アドバンス〉》

久留米大学大学院心理学研究科後期博士課程満期退学。現在、三重大学教養教育院准教授。大学1年で協同学習に出会い、それから現在に至るまで協同学習の研究をおこなっている。同時に、主に大学生を対象に、協同学習に基づいた授業を展開し実践を重ねている。日本協同教育学会認定トレーナー。

大島利伸 Oshima, Toshinobu 《担当講座：パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ 全3講座》

名古屋大学大学院環境学研究科社会環境学専攻博士後期課程満期退学。修士（教育学）。現在、南山大学附属小学校教諭。人間中心の教育の在り方について模索し続けている。学級にベーシック・エンカウンター・グループを導入する研究を10年ほど続けてきた。現在は、ベーシック・エンカウンター・グループを活用して保護者への子育て支援グループの実践を重ねている。臨床心理士。公認心理師。

和田珠実 Wada, Tamami 《担当講座：協同学習ワークショップ〈ベーシック〉》

愛知県立大学大学院国際文化研究科国際文化専攻博士後期課程満期退学。現在、中部大学人間力創成総合教育センター准教授。長年にわたり、幼稚園児から社会人までを対象とした英語教育に携わる。協同学習のワークショップはジョンソンやケーガンらによるものを含め、参加歴は10年以上。日本協同教育学会認定トレーナー。

※職名は2020年4月1日現在（予定）

受講申込手順

1

受講申込

1 受講申込

①申込・受付について

	期 間	申 込	受 付	結果通知
第1次 受付 期間	4/1(水) 正午 ～ 4/15(水) 正午	Webページ・ ファクス	抽選にて受講者・ 「キャンセル待ち」 順位を決定	4/20(月) まで
第2次 受付 期間	4/21(火) 正午以降	Webページ・ ファクス	先着順	申込日より 1週間以内

第1次受付期間： 2020年4月1日(水)正午～4月15日(水)正午

- ・この期間内に、Webページ又は、ファクスにて申込を受け付けます。
- ・受講申込を集計し、定員を超えた講座については、抽選にて受講者を選び、キャンセル待ちの順位を決定いたします。
- ・抽選の結果は原則e-mailにて4月20日(月)までに通知いたします。
- ・受付期間外の申込は、受け付けることができませんので、ご了承ください。

第2次受付期間： 2020年4月21日(火)正午～随時

- ・これ以降は、Webページ、ファクスにて申込を先着順にて受け付けます。申込状況についてはWebページにてご確認いただけます。
- ・受講可否等のご連絡は、原則e-mailにて申込日より1週間以内に通知いたします。

[申込方法]

- ・Webページ⇒ 申込専用フォームをご利用ください。
<http://rci.nanzan-u.ac.jp/ninkan/training/courses.html>
4月1日(水)正午、4月21日(火)正午に申込用Webページを更新します。申込前に画面更新を行ってください。
- ・ファクス⇒ 巻末の受講申込書をご利用のうえお申込みください。

②講座申込時のご注意

- ・参加資格が必要となる講座や、初回申込者を優先受付する講座があります。詳細は、p.4～15の各講座案内ページをご確認ください。
- ・都合により担当講師が変更になる場合があります。
- ・個人名での申込のみとさせていただきます。

③受講料割引制度について

対象者：大学生、大学院生、大学の研修生や通信正科生、
南山学園職員

不 可：科目等履修生、専門学校生

申込時の申請に限りますので、割引の希望を事前にご連絡下さい。
詳細は、お問い合わせください。なお、一部の講座は割引対象外となります。

[お問い合わせ]

人間関係研究センター

e-mail：ninkan-c@nanzan-u.ac.jp 電話：052-832-5002

※事務受付時間 10：00～17：00 (土日祝日休み)



2 受講料の振込

- ①原則e-mailにて振込依頼を送付いたします。受講料振込依頼案内に記載されている指定の銀行口座へお振込ください。
- ②期日にご入金が確認できなかった場合は、キャンセルされたものとみなしますので、ご注意ください。

3 受講案内

- ①受講料の入金確認後、原則e-mailにて受講案内等をお送りします。振込後、1週間以内に届かない場合はご連絡ください。

4 開講日

- ①各講座の日程に合わせて、指定の会場までお越しください。講座ごとに、開講日、時間、会場は異なります。お間違いのないよう十分ご確認ください。
- ②テキストの必要な講座は、初日に受付にて販売いたします。

〈受講キャンセルについて〉

①受講キャンセル料

キャンセル連絡 (当センター受付日)	キャンセル料
講座開始45日前～14日前	受講料の10% ※
講座開始13日前～3日前	受講料の50% ※
講座開始2日前～当日	受講料の全額 (返金不可)

※返金時の振込手数料はご負担ください

- ②受講をキャンセルされる場合は、早急にご連絡ください。当センター事務受付時間外にe-mail、またはファクスにてキャンセル連絡をいただいた場合は、翌事務受付日扱いでキャンセル処理をいたします。あらかじめご了承ください。土日祝日・夏期・冬期休業期間等は事務受付いたしませんのでご注意ください。
- ③宿泊講座の滞在費については、各宿泊施設のキャンセルポリシーに基づきご返金対応いたします。
- ④入金後の講座変更については、同年度内の講座に限り、1件につき1回可能です (定員に空きがある場合のみ)。差額は追加振込もしくはご返金にて対応いたします (振込手数料はご負担ください)。講座開始14日前までにお申し出ください。
- ⑤組織開発ラボラトリーのキャンセルについては別基準となります。募集開始時にご確認ください。

〈講座の中止について〉

申込者が規定の人数に満たない場合や、担当講師の緊急の都合により、開講を中止することがあります。当センターの理由により講座を中止する場合は、入金された受講料を全額ご返金いたします。

〈公共交通機関ご利用のお願い〉

本校に駐車スペースはありません。公共交通機関をご利用ください。ただし、身体・健康上の理由等やむを得ない事情により、自動車での来校を必要とする場合は、申請により学内の駐車を許可する場合があります。申込の際にご相談ください。

緊急時（悪天候など）における講座の取り扱いについて

緊急時における講座の取り扱いについては下記の通りです。

南山大学で開催される公開講座の場合は、受講生の皆様がニュースなどの情報でご判断いただきますようお願いいたします。

なお、判断が難しい場合などは、当センターWebページまたはお電話でご確認ください。

（電話：052-832-5002）

1. 暴風警報発表時の講座措置について

愛知県尾張東部に「暴風警報」が発表された場合、講座の措置については次の通りとします。

※警報発表区分については、気象庁Webページにてご確認ください。

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/saibun/aichi.pdf>

- ①午前7時より前に解除の場合→平常通りの講座
- ②午前7時以降午前11時より前に解除の場合→当日の午前中は休講とし、午後の講座有り
- ③午前11時以降に解除の場合→当日のすべての講座は休講
- ④講座開始以降に発表された場合→大学の指示による

注)「尾張東部に発表」とは、愛知県における警報発表区分の①尾張東部②愛知県西部全域③愛知県全域、のいずれかに警報が発表された場合が該当します。

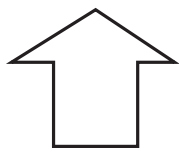
2. 交通機関ストライキ時の講座措置について

- ①名古屋市営交通機関のストライキの場合→「1. 暴風警報発表時の講座措置について」の措置に準じる
- ②JRおよび私鉄のストライキの場合→平常通りの講座

3. 地震防災対策強化地域判定会の招集または警戒宣言の発令時の講座措置について

東海地域の観測データの異常が、一定レベルを超えた場合、「地震防災対策強化地域判定会」が招集され、その結果が「地震発生の可能性が高い」場合には、気象庁長官が内閣総理大臣に報告し、内閣総理大臣は閣議を経て「警戒宣言」を発令することになっています。この中で、警戒宣言前の東海地域の観測データの変化に関する情報については、東海地震の前兆現象の可能性が高まったことを示す情報を新設し、警戒宣言前からの防災面の準備行動に資するように「東海地震に関する調査情報」、「東海地震注意情報」、「東海地震予知情報」という3段階の情報が発表されます。その場合は、大学は右表のような措置を取ります。

発表される地震情報の種類	発表に伴う講座等の措置	解除に伴う講座等の措置
東海地震に関する調査情報 東海地震注意情報よりも低レベルのもので、特段の防災活動はとらない。	発表があった場合でも、平常通り実施。	
東海地震注意情報 東海地震の前兆現象である可能性が高まったと認められた場合に発表される。	①講座開始前に発表があった場合は、自宅待機。来学途中であれば速やかに帰宅。 ②講座開始後に発表があった場合は、講座を中止し、速やかに帰宅。	解除された日の翌日から講座を平常通り再開。
東海地震予知情報 東海地震が発生する恐れがあると認められた場合に警戒宣言発令とほぼ同時に発表される。		



※お申し込みの前に、p.24-25「講座のご案内」を必ずご一読ください。
※全項目記入もれのないように楷書ではっきりと記入してください。
※複数の講座をお申し込みの場合は各講座ごとにお申し込みください（各講座1枚送信）。

〔個人情報の取り扱いについて〕

当センターで管理する個人情報は、南山大学個人情報保護に関する規程に基づき、適正な利用と保護および必要な安全措置を講じて参ります。今回ご連絡いただきます個人情報は、1. 受講に必要な事務連絡、2. 今後の当センター公開講座ご案内（カタログ送付等）、3. 受講者に対する資料作成（出欠表等）以外の目的には使用いたしません。

受講申込書

年 月 日

受講希望講座名	
ふりがな	
氏名	
生年月日	年 月 日（才）
自宅	〒 電話（ ） — ファクス（ ） — E-mail @
携帯電話番号 または 日中連絡先	
職業	1.公務員 2.団体職員 3.会社員 4.自営業 5.医療 6.教育 7.教会 8.主婦 9.学生 10.その他（ ）
勤務先	
領収書が必要な場合	領収書宛名をご記入ください。
☆ 今までに当センターの講座を受けたことがあればこちらに○をご記入ください。→（ ） ☆ 今までに同様の研修・講座を受けたことがあればお書きください。	
☆ この講座（当センター）のことをどこでお知りになりましたか。	
☆ 当センターに関するお問い合わせ、ご希望、その他ご自由にお書きください。	

【お願い】 お申込後、住所・連絡先等が変更になった場合は必ずご連絡ください。



Human Relations

Designed by Hiroshi HAMAMOTO

多様なあり方を尊重する、人間性豊かな社会を創り出すために

南山大学人間関係研究センターは、一人ひとりの存在を大切に、誰もが自分らしく生きられる人間性豊かな社会の実現を目指して、現代社会にとって大きなテーマの一つである「人間関係」に焦点をあてた研究と、その成果を広く社会へ還元するための取り組みを行っています。

センター員がそれぞれのフィールドを通して取り組む研究は、従来型の客観的分析的研究にとどまらず、対人関係・組織・人間性・社会など、幅広い分野における実践的研究の豊富さが特色です。

公開講座では、「ラボラトリー方式の体験学習」という学習方法を軸に、誰もが人間関係を実践的に学ぶことができる場を提供しています。これらの講座には、日本全国から多くの方がご参加くださり、2019年現在の修了者数は延べ8856名にのぼっています。また、海外から研究者を招聘しての組織開発ラボラトリーは、最新の組織開発の理論と実践を学ぶ場として注目を集めています。

この他にも、公開講演会やワークショップの開催、メールマガジンによる情報発信、人間関係トレーニングを必要とされる様々な領域での受託事業などを通じて、多様なあり方を尊重する、人間性豊かな社会の実現に向けて、日々取り組んでいます。

南山大学人間関係研究センターの生い立ち

南山大学人間関係研究センターの起源は、南山短期大学人間関係研究センターにあります。同センターは、1977年9月以来23年に渡って活発な活動を展開してきました。2000年4月、その母体となる南山短期大学人間関係科が、南山大学文学部教育学科とともに人文学部心理人間学科へと発展したことを機に、南山大学5つめの研究センターとして、新たな活動を開始しました。現在では、人間関係に関する研究の推進と、社会人を対象とした学び場の提供を柱としながら、多様な活動を展開しています。

多様なあり方を尊重する、人間性豊かな社会を創り出すために



南山大学 人間関係研究センター
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
電話：052-832-5002 ファクス：052-832-3202
事務受付時間：10:00～17:00（土日祝日休み）
e-mail: ninkan-c@nanzan-u.ac.jp
<http://rci.nanzan-u.ac.jp/ninkan/>